日本共産党
流山北部後援会

ニュースあすなろ

2020年7月
第257号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154-0526
小倉 卓郎
TEL/FAX
7155-0272
（部内資料）

市長にコロナ対策緊急申し入れ

本気で市民を守ってよ！

7月2日に、市長へ8回目の申し入れをしました。

①PCR検査センターの開設について、県北西部各自治体のうち未設置は本市を含め2市のみとなっている。早期開設に向けて準備を促進すること。

（残り2市のうち、我孫子市が「7月中に設置する」と方針転換をしたので、未設置は流山市だけです。

②爆発的感染拡大に備え、市内のホテル1棟借り上げや、体育館等への隔離病床設置の計画を立てること。

③感染防止備品が不足し、ワクチン・治療薬がない下でも従事されている医療スタッフ、介護従事者、保育士、学童クラブ支援員、ゴミ収集作業員、各種相談窓口の職員に対して『危険手当』を支給すること。

④医療機関等へのマスク、消毒液を「貸与」扱いとしているのは県内各自治体の中でも異常な差別的扱いであり「支給」に切り替えること。

⑤季節性インフルエンザワクチンの接種については助成金を創設し、早期接種を推奨するとともに、同時流行の防止に力を尽くすこと。

⑥小中学校は、可能な限り少人数学級を目指し、サポート教員などの現場教員の増員、消毒・清掃員等（業務委託含めて）の配置など教職員の負担を最大限減らすこと。

⑦保育ステーションは、クラスターの発生リスクが高いことから真に必要な利用者に限定するなど、対象を再考すること。

（こんにちは植田和子メールに続く。）

第33回 植田和子議会報告会

コロナとくらし 語り合うつどい

と　き　7月26日（日）午後3時15分～

ばしょ　北部公民館2階 大会議室

コロナの勢いが止まりません。流山市では6月議会が短縮されるなど、市の対応に疑問をお持ちの方も多いと思います。病院や事業者の思い、暮らしの現状など問題点を語り合いましょう。また、豪雨災害が起きています。災害に対する対応なども心配が増えていることでしょう。皆さんご一緒に今後の対応を考えていきましょう。

暑さも考えて熱中症に気を付け、お誘いあわせておいでください。**マスクを着用！間隔を保って！**

緊急事態の時は中止もありえます。 主催　日本共産党北部後援会

再稼働やめ 原発から撤退を!!

7月5日（日）日本共産党衆議院千葉7区・南関東ブロック比例予定候補のさいとう和子さん（右）が、スーパーかどや前で国政・コロナ対策などをお話しました。左は植田和子市議。

コロナ禍のもとでの豪雨災害

今年も豪雨で大きな災害となった。毎年のように、かつて無いとか・50年に一度のという大雨による災害がおきている。もうそんなことでは済まない事態と言える。

河川の氾濫はあっという間の出来事と、被害にあった人たちは異口同音に話す。避難勧告・指示の遅さも問題になってきている。防災無線が聞こえなく逃げ遅れた方がいる一方で防災ラジオが全戸に配られていて助かったという話も。流山市も真剣に検討して欲しい。

コロナで自粛生活を余儀なくされて、その上この災害。国民はそれでも必死に頑張って立ち上がろうとしている。それに比べて、国の責任者は国民の命守れていない。Y

こんにちは　植田和子です

7月11日

⑧社会福祉協議会が実施している緊急小口資金の貸付の申請から支給まで2週間もかかっているため、タイムラグをなくす取り組みとして、市が立て替え払いを実施すること。

⑨小規模事業者への事業継続を応援する給付金（1事業所最大10万円）や、飲食店での感染防止（座席数の減少、飛沫防止等）に対する支援金、売上回復支援金等、他市で実施されている支援金を流山市でも創設すること。

⑩福祉タクシー券について、1回乗車につき1枚限定利用の制限をやめること。また、透析患者以外の障害者の福祉タクシー券も発行枚数を増やすこと。

⑪休校中、使用されず負担するだけとなった自転車駐輪場の料金について、学生等を対象に日割りで払い戻しをすること。

⑫上下水道料金の減額・免除制度を創設すること。

⑬公共施設の利用について、人数が定員の半数など大幅に制限されている期間中、利用料を減額し、市民主体の取り組みや、各種団体の活動継続をサポートすること。

38項目にわたる申し入れのうち13項目を報告しました。今まで回答が全くないので、申し入れも8回目となってしまいました。これからもあきらめずに続けていきます。回答が出ましたら、皆さんにお知らせします！

ヘッドライト

社会のゆとりと心のゆとり

物を作るとき材料の強度や性能を計算し、その何割増しかで作るのは常識だ。豪雨での災害が広がっているが、当然堤防などもその基準で設計したはずだ。車や家の設計がこの安全係数を考慮しなかったら業務上の責任を問われる。社会にもそのような仕組みが考えられているはずだ▼ところが今回のコロナ問題ではどうだろう。ウィルスの根絶はあり得ず、ここのところ10年ここのところ10年おきにサーズやマーズというコロナウィルスが蔓延した。多くの国がそのために備えて研究し、病院や検査機関を準備した▼ところが日本は優れた技術を持ちながら国の備えは不十分なまま。それどころか病院や保健所を減らし、PCR検査に押し寄せると医療崩壊が起こると責任を国民に押し付け行動の自粛を強制した▼初動の遅さは明らかだが、いつもぎりぎりの運営をせまる効率優先の社会の仕組みそのものにメスを入れなければ解決しない。安全率、ゆとりを保障することは、人々の心のゆとりにつながる。

流山市にも保健所を!!

地域の要求に応えて！

「なんで流山市のコロナの詳しい情報がないの？なぜ保健センターしかないの？」そんな疑問から調べてみました。

保健所は「地域保健法」に基づいて設置されています。2000年に、行政リストラによる広域化で、人口30万人以上の市に設置されることになりました。1992年には全国852ヶ所あったのが、現在では517ヶ所に減っています。

主な役割は、地域保健に関する思想の普及・向上、栄養の改善・食品衛生、環境衛生、公共医療事業の向上・増進、母性・乳幼児・老人の保健、歯科保健、精神保健、エイズ・結核・伝染病等の予防などとなっています。

保健センターより幅広い役割と専門性に特化され、権限もあります。

これに対して保健センターは、母子保健をはじめ、成人・老人保健や予防接種などのサービスの提供など、対人サービスが多くなっています。日常の健康管理や休日の突然の体調不良、母子・乳児の医療相談など頼りになりますが、今の新型コロナウイルス対策には残念ながら力を発揮することができません。

保健所の管轄区域が広く、満足な検査もできず、万が一発症しても見過ごされてしまうというケースも起こりえます。

国に法改正を求めるとともに、県にも実情を訴える必要があります。T

平和願う夏

落下傘作りの毎日

私が14歳くらいの浜松での戦争体験です。学校にはほとんど行かれずに、軍需工場で落下傘を作っていました。落下傘を縫う糸を繋げる作業で、糸を巻き取るために指の指紋が消えてしまうほどでした。

終戦になるまでの約半年間、まったく家に帰れずに、泊り込んでの作業でした。空襲警報が鳴っても避難をさせてはもらえず、よく泣いたものです。艦砲射撃を受けた飛行機がどんどん落ち、工場では大豆の搾りかすしか食べさせてはもらえませんでした。K

戦争を忘れない　沖縄

摩文仁の丘で説明を聞く若者たち

沖縄 平和の火（慰霊の日に点火）

沖縄戦終焉の地となった沖縄本島南部の糸満市摩文仁（まぶに）に平和祈念公園があります。平和の火の後方には、平和の礎・平和祈念堂・平和祈念資料館などがあり、平和の尊さを体感する場所になっています。届け平和への願い!!

韓国映画で教えられた「非暴力のデモで民主化実現」

コロナ自粛中、韓国の映画「タクシー運転手約束は海を越えて」を観た。1980年5月全斗煥らのクーデターに抗議する学生と市民。民主化を求めて抵抗するが圧倒的な軍の力により150人以上の死者を出し鎮圧された。韓国史上最大の悲劇と言われる。

光州で起きた悲惨な事件をフィルムに収めたドイツ人記者に「フィルムを世界に届けてほしい」と依頼し、厳しい検問を命がけで潜り抜け、光州からソウル、そして世界に送り届けるドラマだ。

ふつうの一市民で、日々の生活に困っていた時に、10万ウオンの報酬目当てで、ドイツ人記者をタクシーに乗せることに。学生運動にも政治や社会問題にも関心がなかった運転手が、あるまじき現実を目にし、見て見ぬ振りが出来なくなって・・・。

「歴史的な事件を目撃した一人の人間の心の変化」がこの映画のテーマだという。また「今起こっていることを正しく理解し、どうするべきかを自分の力で考えることが大切」ということを教えてくれた。公開（2017年8月）直前、パク・クネ政権がセウォル号沈没事件や民主化を求める国民の「ろうそくデモ」の影響もあって倒された。

なぜ韓国で「非暴力のデモで民主化が実現」したのだろう？と疑問に思っていたが、この映画を観て、また韓国の民主化への歴史を学ぶ機会を得て、ようやくその内容がわかった気がした。東深井　Y

初めてのキャンピングカーの旅

夫がキャンピングカーに改造した車で初めて4日間の旅に出た。

一応新潟までとは決めていたけど、とくに時間制限のない気ままな旅だ。車内で食事を作って食べ、日帰り温泉に入り、景色のよい所を散歩し、新鮮なお刺身を食べ、トイレのある道の駅や公園に車を停めて寝る。

雨の日も晴れの日もあった。険しい山道や海岸線も走った。

日本海に沈む夕日を満喫し、アップダウンの激しい渓谷も歩いた。

後期高齢者の夫にせかされて、1時間半も歩き、めろめろになったけど、美味しい清流の水を飲んで生き返った。

追い越していった中年の夫婦が、夫の年を聞いて仰天していた。

渓谷では初めて「ヒル」に噛まれ、血だらけになったことも思い出になった。

留守を守ってくれていた娘たちに写メを送ると「すごいね。こっちがうれしくなるよ」「気をつけて帰ってきてね」なんて返してくれた。

こんな家族の支えがあるから、愛する夫と旅ができる。いつかは全国を旅したい。生命の続く限り……。（写真は旅の途中立ち寄った群馬県の吾妻渓谷）　高野とも

最近の電話事情

最近はオレオレ詐欺防止のために電話に出ないか、留守電設定が多くなっています。それは理解できるのですが、私のように日々家庭に電話して仕事をしている者にとっては困ることもあります。本当に留守なのか迷うし、また電話をしなくてはならないからです。

契約している業者や友人・知人から電話があったときは、留守電設定にしてあっても、相手が名乗れば電話に出ていただくと助かると思います。名乗っても電話に出ないときは本当に留守なのだとわかるからです。（西深井　S）

あすなろ川柳

●仲の良さ
共に手を取り
留置所へ
河井前法相・夫妻ともに逮捕

●腹心を
次々首にし
いまや敵
トランプ大統領四面どころか全面楚歌、親戚まで

●「ただの風邪」
我が身の中で
暴れ出し
ブラジル大統領の意地っ張り

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぶ
しんぶん赤旗
日刊●月 3497円
日曜版●月 930円
あなたも読んでみませんか。
知りたい情報満載です。